

サイバーセキュリティ株式オープン

(為替ヘッジあり) / (為替ヘッジなし)

(為替ヘッジあり) 予想分配金提示型

(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型

追加型投信 / 内外 / 株式



サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジなし)
Morningstar Award "Fund of the Year 2019"
[国際株式型(特定地域) 部門]

優秀ファンド賞 受賞

詳細は後記をご覧ください。当該評価は過去の一定期間の実績を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジあり) / (為替ヘッジなし)は、NISAの成長投資枠の対象です。

※販売会社により取扱いが異なる場合があります。くわしくは、販売会社にご確認ください。

ご購入の際は、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

販売用資料 2024.03

■ 投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは



東洋証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号
加入協会：日本証券業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

■ 設定・運用は

三菱UFJアセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

広がるサイバー空間

通信速度やコンピューターの処理能力の飛躍的な向上により、クラウドやフィンテック、スマート家電など技術革新が多様な産業で起こり続けています。

これらがネットワークでつながり、新しいサービスが今後も次々と生まれることで、世界で流通するデジタルデータ量は増加していくと予想されています。



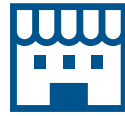
サイバー 【cyber:インターネット上の】
セキュリティ【security:安全、防衛、警備】

フィンテック

ロボット



お店



クラウド



スマート工場



インターネット・ショッピング

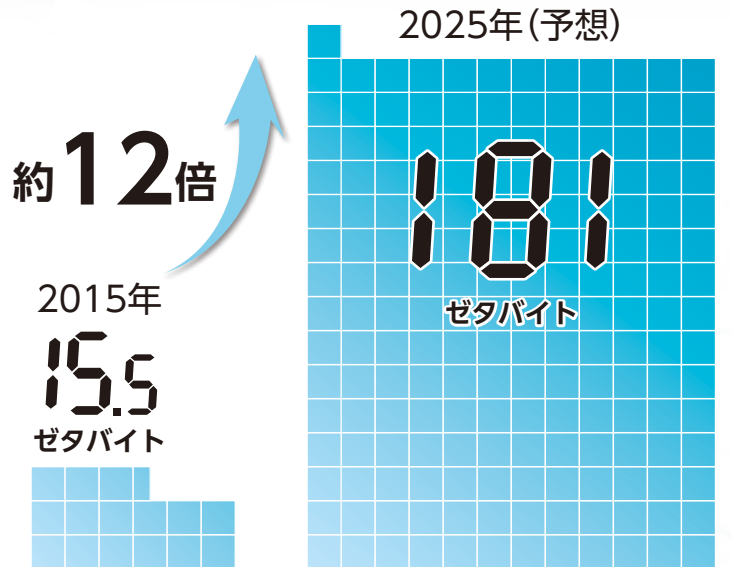
クラウド(クラウド・コンピューティング)とは…?

インターネットを介して、サーバーやソフトウェア、データベース等を提供または利用する技術およびそのしくみのことをいいます。また、このような技術などを利用したサービスをクラウドサービスといいます。

フィンテックとは…?

金融(ファイナンス)と技術(テクノロジー)を融合した金融サービスのことをいいます。

急増する世界のデジタルデータ量



・1ゼタバイト=約1兆ギガバイト
 ・上記は2021年6月時点のデータです。
 (出所) statistaのデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

例えば、こんな未来が待っている!

「コネクテッドカー」

2035年までに新車販売台数の約90%がインターネットに接続される見通しです。自動運転や通信による危険察知、盗難車両追跡、自宅の家電操作まで車でできる日も近いと考えられます。



(出所) 国土交通省のデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

製造業で広がるスマート工場!

「人×機械×IT*」

工作機械にIoT(モノのインターネット化)を導入してネットワークに接続し、現場作業員がスマートフォンで生産を管理できる仕組みを構築。さらに、加工データや稼働実績を分析し、次の加工に反映させることで、品質の安定化・ばらつき低減を図るプロセスを導入。

*IT (Information Technology) とは、情報技術のことです。



(出所) 経済産業省「ものづくりスマート化ロードマップ調査」を基に三菱UFJアセットマネジメント作成

・本資料では、サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジあり)を「為替ヘッジあり」、サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジなし)を「為替ヘッジなし」、サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジあり)予想分配金提示型を「(為替ヘッジあり)予想分配金提示型」、サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジなし)予想分配金提示型を「(為替ヘッジなし)予想分配金提示型」ということがあります。また、これらを総称して「当ファンド」、各々を「各ファンド」ということがあります。
 ・上記は、技術革新によってもたらされるサービス等の一例であり、すべてを網羅するものではありません。
 ・写真、画像はイメージです。・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

本資料の【ご注意事項等】の内容を必ずご覧ください。

増加するサイバー攻撃の被害

サイバー攻撃の目的・攻撃手法の変化

サイバー攻撃の目的の変化

- IoT(モノのインターネット化)機器の乗っ取り
- ワーム型ランサムウェア(感染拡大機能を持つランサムウェア)攻撃
- 物理的被害をもたらす重要インフラへの攻撃 等

攻撃手法や対象の変化

- ランサムウェア攻撃
- マルウェアが組み込まれたアドウェア(広告を目的としたソフトウェア)からの感染 等

国家によるもの

軍事戦略など

組織犯によるもの

金銭目的など

愉快犯によるもの

自己顕示など

- ウェブサイトからの感染
- 特定の標的宛メールからの感染 等

- 不正アクセス
- DDoS攻撃(大量アクセスで機能停止をさせる攻撃) 等

- 無差別に送付されたメールによるマルウェア(コンピュータウィルスのような有害なソフトウェア)感染 等

2000年 2005年 2010年 2015年 2020年

・上記はサイバー攻撃の目的・攻撃手法の変化のイメージ図です。

(出所)総務省の資料を基に三菱UFJアセットマネジメント作成

情報技術の発展とともに、サイバー攻撃も巧妙化・高度化しています。

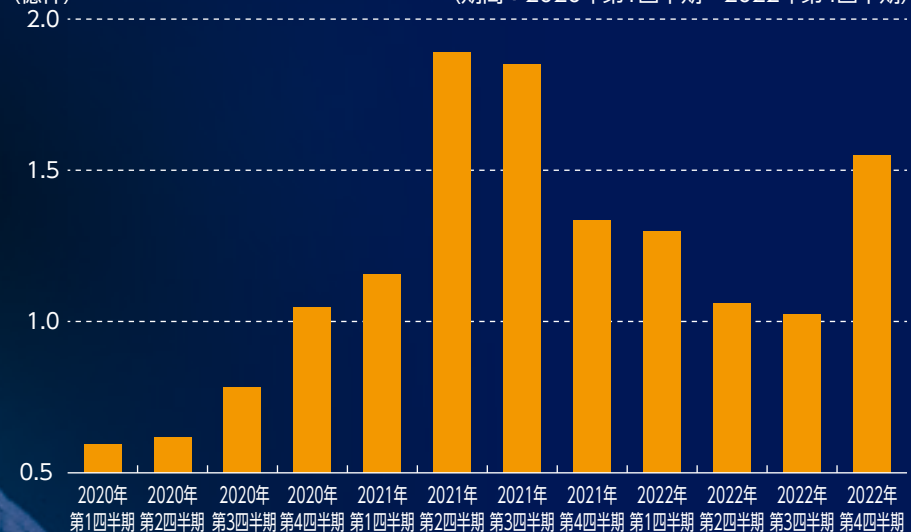
2021年半ばにかけてデータを暗号化して使用不能にしたのち、元に戻すことと引き換えに身代金を要求するランサムウェアによる攻撃が急増しました。

また、国家によるサイバー攻撃も増えており、サイバー攻撃が軍事戦略の一つとなっています。

最近の世界のランサムウェア攻撃数の推移

(億件)

(期間：2020年第1四半期～2022年第4四半期)



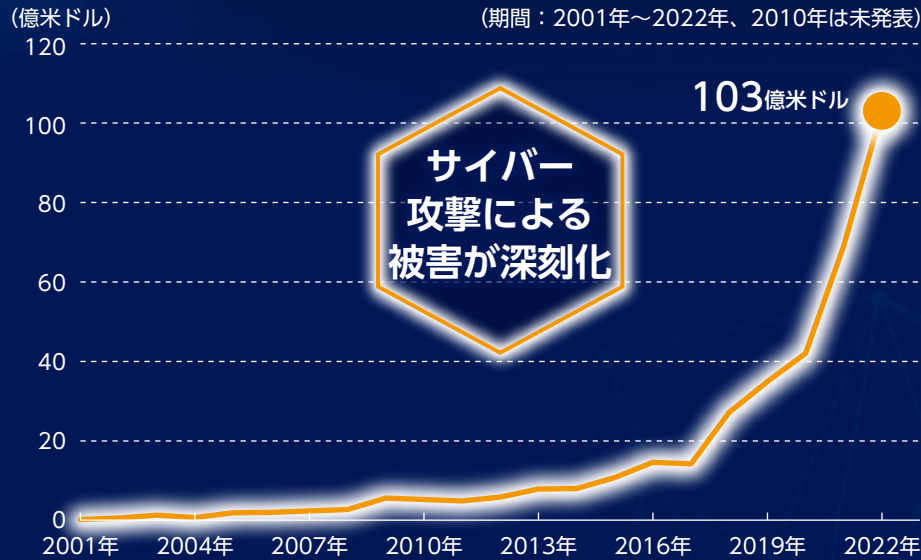
・上記は2023年3月時点のデータです。

(出所)statistaのデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

サイバー攻撃による被害は年々増加傾向にあります。

企業がサイバー攻撃を受けた場合、
損害賠償、復旧のためのコスト発生、
ビジネス停止による機会損失、
信用の失墜などさまざまな損失が発生する可能性があり、
大きな脅威となっています。

米国 サイバー犯罪被害額の推移



・被害額は、IC3 (FBI (米連邦捜査局) のインターネット犯罪苦情センター) への報告ベース。
・上記は2023年3月時点のデータです。

(出所) statistaのデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

・上記は、サイバー攻撃の一例であり、すべてを網羅するものではありません。写真、画像はイメージです。
・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

最近起きたサイバー攻撃事件



戦争で増加するサイバー攻撃

2022年6月の米マイクロソフトの報告書によれば、同年2月のロシアのウクライナ侵攻以降、ロシアによるウクライナ支援国へのサイバー攻撃が増加した。



大規模な国際会議を狙うサイバー攻撃

2023年5月に行われたG7広島サミットの期間中一時、広島市のホームページが閲覧しにくくなり、DDoS攻撃を受けたとみられている。過去にも大規模な国際会議は、会議妨害や情報窃取等を狙ったサイバー攻撃の標的となっている。



サイバー攻撃によるサプライチェーンの寸断

2023年7月、日本のコンテナ港でサイバー攻撃によるシステム障害が発生し、2日間にわたりコンテナ搬出入作業が停止した。その影響で物流に混乱が生じ、自動車大手の工場が稼働停止に陥る等、企業活動に甚大な影響を与えた。



SECの新たなサイバーセキュリティ開示規則

米国証券取引委員会 (SEC) は2023年12月、上場企業に対しサイバーセキュリティに関する事故、リスク管理、ガバナンスの開示を義務付ける新たな規則を採択しました。その背景には、サイバー攻撃による被害が増加・高度化している中、投資家や一般市民から企業に対して透明性を求める声が高まっていることがあります。当規則は、多くの企業でサイバーセキュリティに関するリスク管理やガバナンスの見直しが必要となるなど、大きな影響をもたらすとみられます。

(出所) 各種資料を基に三菱UFJアセットマネジメント作成

本資料の【ご注意事項等】の内容を必ずご覧ください。

私たちの生活に根付くDX

DX(デジタルトランスフォーメーション) デジタル技術とデータ活用が進むことによって、社会・産業・生活のあり方が根本から革命的に変わること

新型コロナウイルス(以下、新型コロナ)をきっかけにDXは急速に進展し、デジタル社会に向けた不可逆的な変化が起きています。

働き方のデジタル化

コミュニケーションツール「Microsoft Teams」

世界の月間アクティブユーザーが2023年7-9月期には約**3億2,000万人超**に。
・企業HP

メタバースを活用した働き方

メタ・プラットフォームズ(旧フェイスブック)やマイクロソフトは、アバターを使って仮想空間で会議などができるツールを開発。物理的に離れていても、仮想空間でのユーザー同士の交流やプロジェクトを共同で進めることが可能に。
・各企業HP



小売りのデジタル化

EC(電子商取引)サイトとライブ配信を組み合わせた販売形態「ライブコマース」

ビデオコンテンツで商品をリアルタイムに販売。テレビショッピングとは違い、販売員と消費者双方でのコミュニケーションが可能。アメリカでは、2026年のライブコマースでの売上は、**2020年の約11倍**になると予想。
・2022年11月時点、statistaのデータ



ヘルスケアのデジタル化

ウェアラブル端末での健康管理

ウェアラブル端末から心拍数や血圧データを取得し、異常の感知や日々の健康状態の管理に活用、医師等ともデータの共有が可能に。

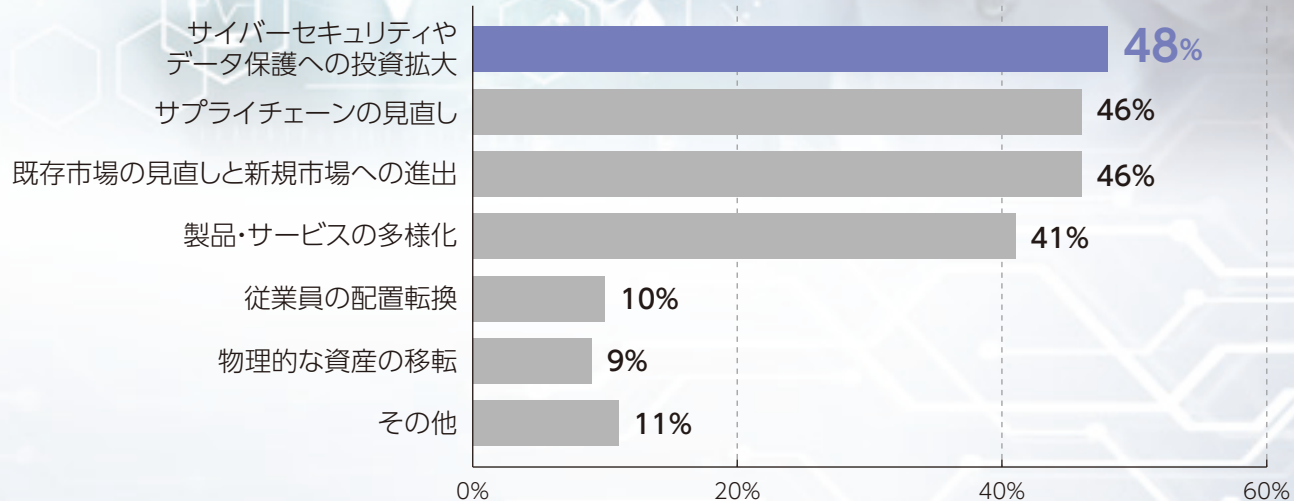
世界の医療ウェアラブル端末の市場規模は、2026年には**2021年の約4.2倍**になると予想。

・2021年12月時点、statistaのデータ



(出所) 各種資料を基に三菱UFJアセットマネジメント作成

今後1年で地政学リスク軽減のために実施する施策は？



・調査時期: 2022年10月、11月
・対象: 世界105カ国・地域のCEO4,410人
・複数選択可 質問や選択肢を短縮している場合があります。
・上記は、PwC作成のデータ・情報を基に作成していますが、当該データ・情報の正確性・完全性等は保証されておりません。
また、PwCが三菱UFJアセットマネジメント株式会社の投資信託商品を推奨するものではありません。

(出所) PwC「第26回世界CEO意識調査」のデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

世界中でDXが進む中、
ロシア・ウクライナ戦争等から
地政学リスクが高まっています。
各国のCEO(最高経営責任者)は、
地政学リスクへの対応策として、
サイバーセキュリティへの投資拡大を
挙げています。

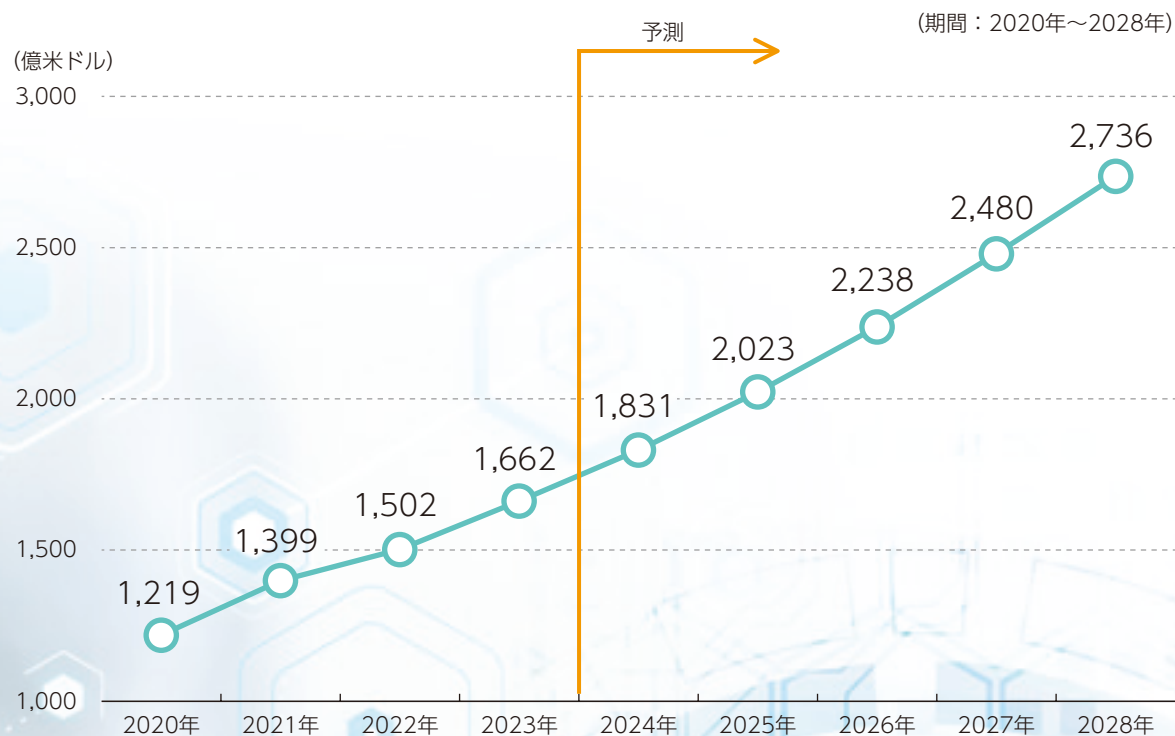
・写真、画像はイメージです。・上記はDXの進展へのご理解を深めていただくために、企業例を紹介したものです。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記銘柄を組み入れることを保証するものではありません。
・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

本資料の【ご注意事項等】の内容を必ずご覧ください。

成長が続くサイバーセキュリティ関連企業

ITを活用した利便性の高い社会において、セキュリティに対する重要性が高まっていることを背景に、今後も、サイバーセキュリティ市場は拡大していくと見込まれています。

世界のサイバーセキュリティ市場規模推移



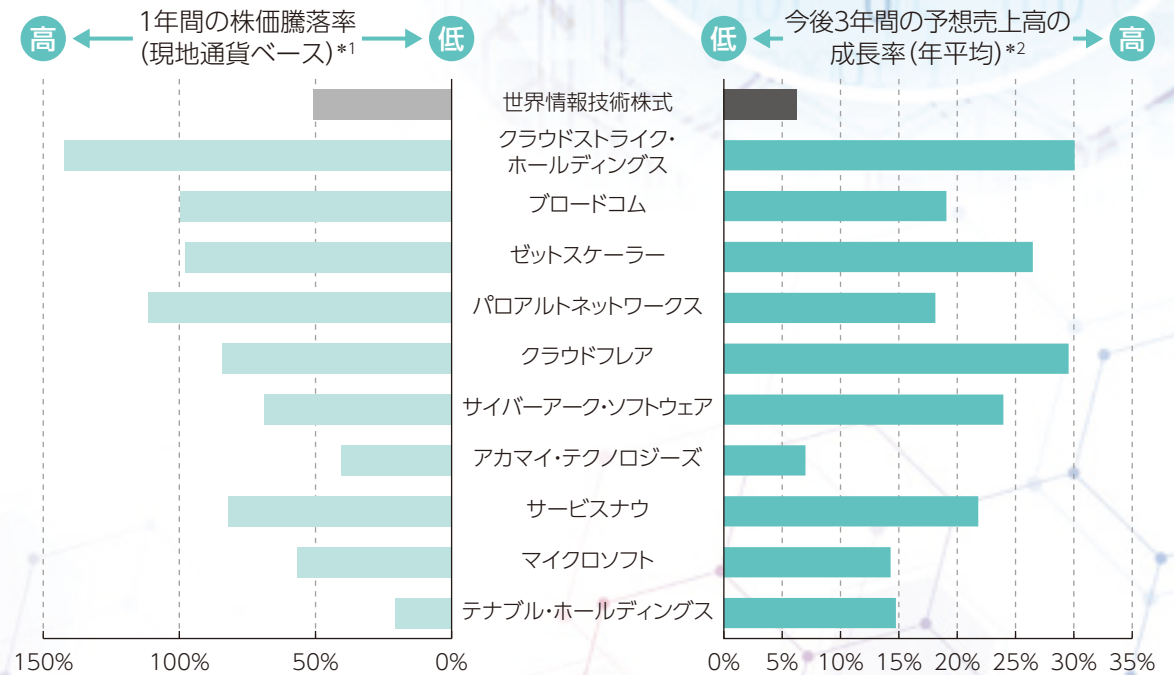
・金額はサイバーソリューション、セキュリティサービスの収益の合計
・上記は2023年9月時点のデータです。

(出所) statistaのデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

世界情報技術株式と組入上位10銘柄(2023年12月末時点)の 株価騰落率と予想売上高の成長率

当ファンドで組み入れているサイバーセキュリティ
関連企業(組入上位10銘柄)をみると、過去1年間の
株価騰落率はプラスとなっており、予想売上高の
成長率もプラスとなっています。

また、予想売上高の成長率は、世界情報技術株式と
比べて高くなっています。



参考 サイバーセキュリティ関連企業
の今後3年間の予想売上高の
成長率(年平均)*3 **18.8%**

(出所) Bloombergのデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

*1 2022年12月末時点と2023年12月末時点の株価を使用して算出。なお、当ファンドの組入上位10銘柄は、2023年12月末時点のものであり、1年間継続して保有していることを示すものではありません。

*2 各銘柄の会計年度ごとに算出(2024年1月9日時点のBloomberg予想値)。世界情報技術株式は各年の12月末を年度末として算出。

*3 2023年12月末時点の当ファンドの組入銘柄の予想売上高成長率を、組入比率で加重平均して算出しています。組入比率は当ファンドの代表的なファンドのデータとして「為替ヘッジなし」のデータを使用しています。組入比率は純資産総額に対する割合です。今後3年間のデータが取得できない銘柄については取得できる期間を取得。

・上記は当ファンドのご理解を深めていただくために、組入銘柄を紹介したものです。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記銘柄を組み入れることを保証するものではありません。

・世界情報技術株式は、指数(配当込)を使用しております。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。

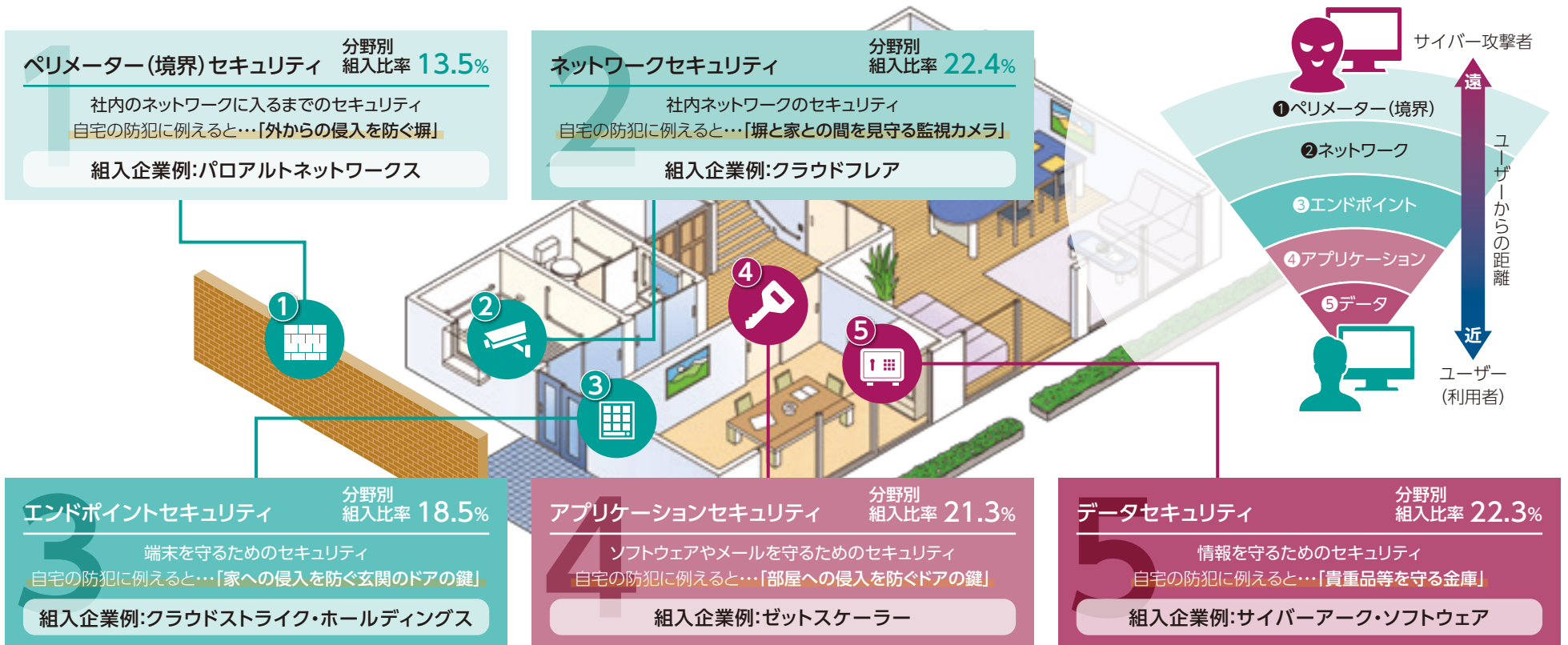
・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。



サイバーセキュリティ5つの主要分野と組入企業例

- サイバーセキュリティはユーザーからサイバー攻撃者までの距離に応じて5分野に分類でき、その中でも、当ファンドは特に利益成長率が高いアプリケーションやデータといった、ユーザーから近い分野を守るサイバーセキュリティに注目しています。

5つの分野を、" 自宅の防犯 " にたとえると…



(出所) ヴォヤ・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシー (以下、ヴォヤ) の資料等を基に三菱UFJアセットマネジメント作成
 ・上記はイメージであり、すべてを網羅するものではありません。・5つの主要分野および注目する分野は、将来変更する場合があります。・各分野の組入企業例は当ファンドの理解を深めていただくため、紹介したものです。組入企業例は、2023年12月末時点の当ファンドにおける各分野の代表的な組入企業例です。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記銘柄を組み入れることを保証するものではありません。
 ・組入比率は当ファンドの代表的なファンドのデータとして「為替ヘッジなし」のデータを使用しています。組入比率は純資産総額に対する割合です。・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

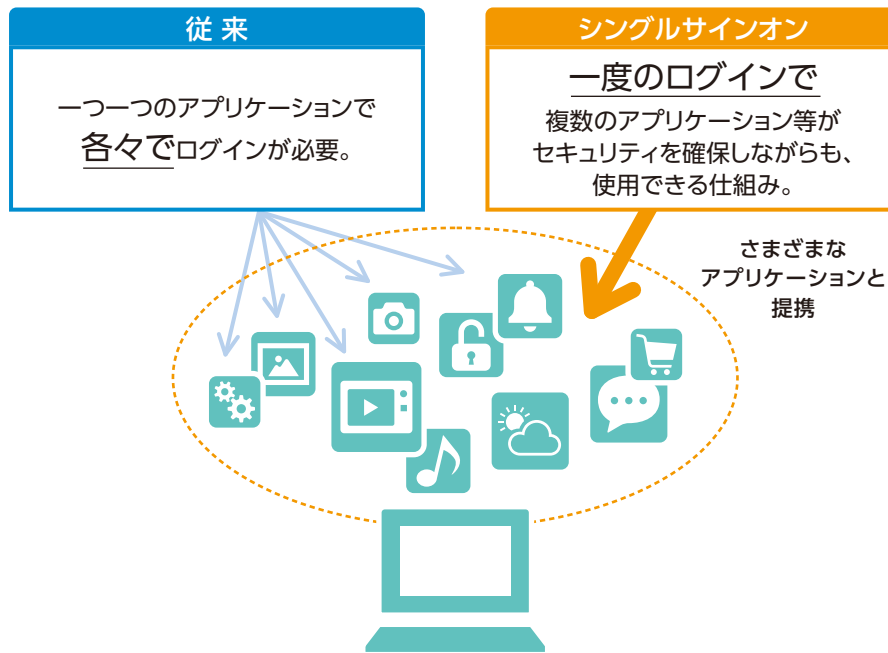


進化するサイバーセキュリティ技術

- 従来のサイバーセキュリティは、それぞれの脅威に個別に対応するのが主流でした。しかし、今日では、新しい攻撃や脅威に対し、よりリアルタイムかつ包括的に対処することが求められています。
- そのため、サイバーセキュリティ技術は進化し、包括的なセキュリティ確保や、AI(人工知能)の活用なども進んでいます。

シングルサインオンによるID管理

📌 オクタの例(データセキュリティ)



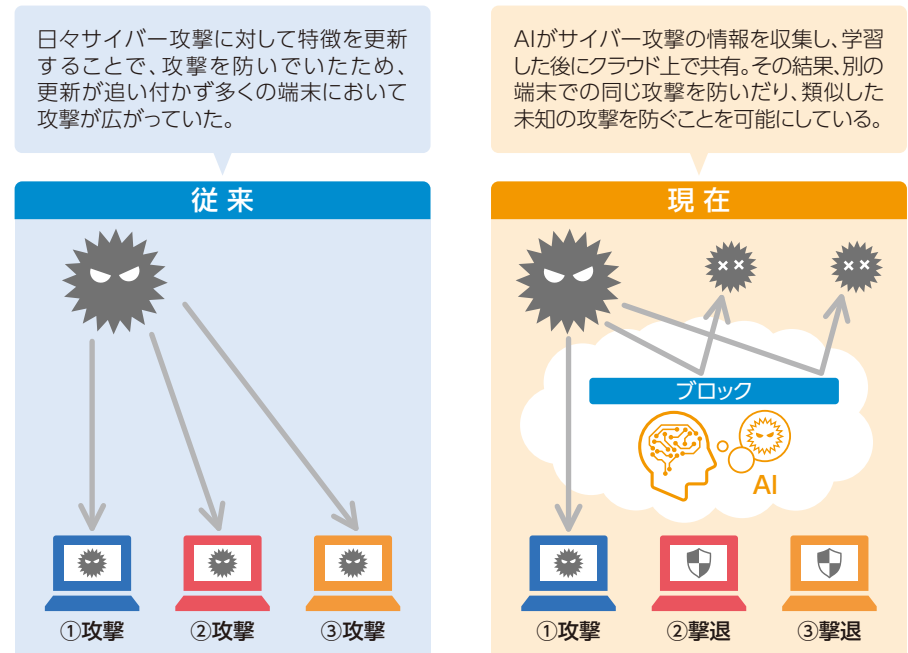
(出所) オクタの資料を基に三菱UFJアセットマネジメント作成

・上記はイメージであり、すべてを網羅するものではありません。

・サイバーセキュリティ技術への理解を深めていただくため、紹介したものです。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記銘柄を組み入れることを保証するものではありません。

AIを用いたサイバー攻撃対策

📌 クラウドストライク・ホールディングスの例(エンドポイントセキュリティ)



(出所) クラウドストライク・ホールディングスの資料を基に三菱UFJアセットマネジメント作成





IT化の発展に必要不可欠なサイバーセキュリティ



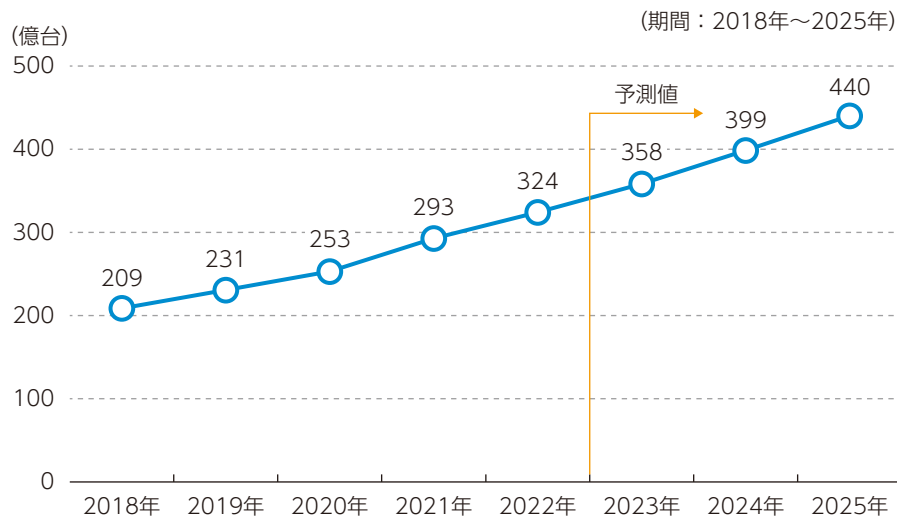
- あらゆるモノがインターネットに接続されるIoTでは、機器だけでなくその周辺のシステムなども守る必要があり、セキュリティ範囲は多岐にわたります。
- IoTデバイス数の増加は、サイバーセキュリティ市場の拡大につながるとみられます。

・IoTデバイスとは、固有のIPアドレスを持ち、インターネットに接続可能な機器をさします。

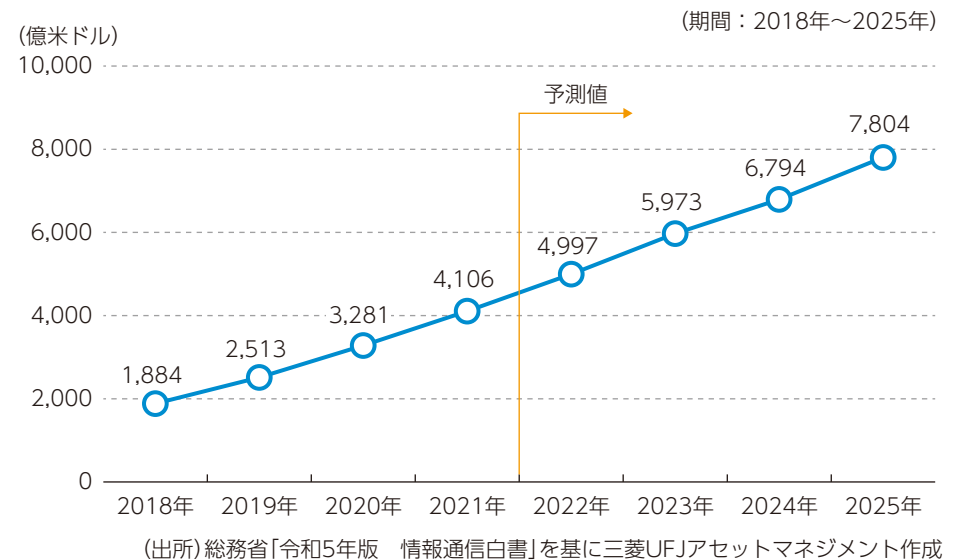


- クラウドサービスは、サーバー管理における手間の削減やセキュリティの向上などを目的に、情報資産を管理する手段として急速に普及しています。
- クラウドサービスを提供する企業は、多くの顧客企業のデータを守るため高度なセキュリティ技術を有しています。

世界のIoTデバイス数の推移



世界のクラウドサービス市場規模の推移



・画像はイメージです。

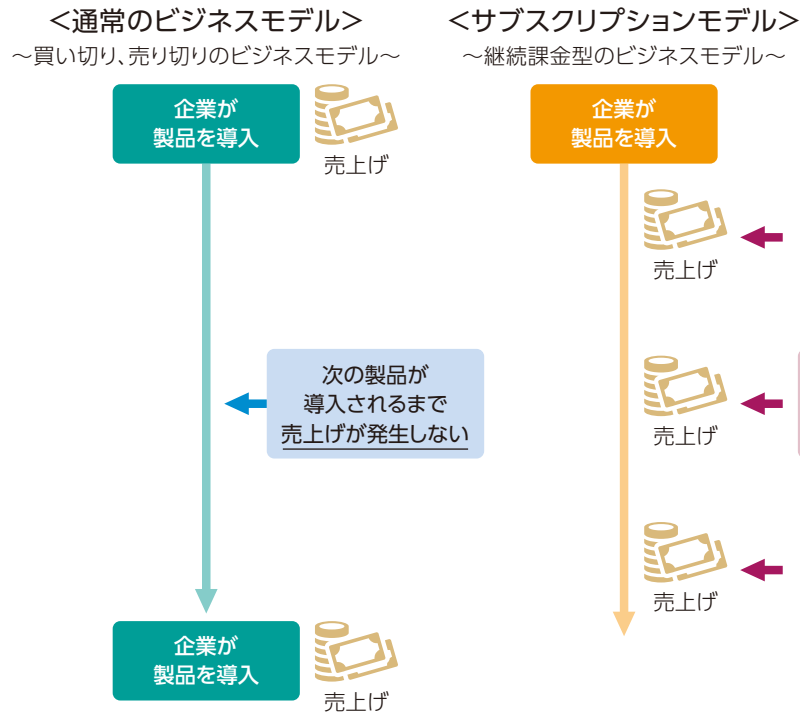
・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。



サイバーセキュリティ関連企業の多くで取り入れられているサブスクリプションモデル

- サブスクリプションモデルとは、定額で製品やサービスを利用できる継続課金型のシステムのことです。
- サイバーセキュリティ関連企業の多くは、このサブスクリプションモデルを採用しているため、定期的にユーザーから一定の課金を受け取ることができ、安定した収益が見込めます。また、ユーザー側は初期導入コストを抑えられることで、導入しやすいというメリットもあります。

サブスクリプションモデルのイメージ

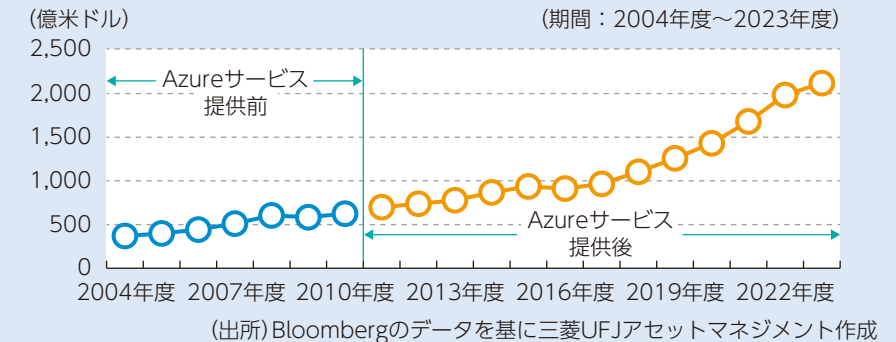


マイクロソフトのサブスクリプションモデル成功事例

マイクロソフトが提供するAzureはクラウドサービスを提供するプラットフォームで、アメリカの政府機関はじめ、各国の教育機関、民間企業等が顧客となっています。

現在の最高責任者(CEO/サティア ナデラ氏)が就任した2014年以降、同社はクラウドをプラットフォームとしたビジネスへの移行が加速し、革新的な成長を続けています。ワードやエクセル等のオフィスについても、サブスクリプションモデルでの提供を行っており、売上高の安定性に寄与すると考えられます。

Azureサービス提供前後の売上高



・上記はイメージであり、すべてを網羅するものではありません。
 ・上記は当ファンドの理解を深めていただくため、企業例を紹介したものです。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記銘柄を組み入れることを保証するものではありません。
 ・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。



【ご参考】サイバーセキュリティ関連銘柄のIPO(株式公開)と買収

- 多様かつ広範囲になるサイバー脅威に対し、サイバーセキュリティ分野では次々に新しい技術が生まれ、IPO(株式公開)やM&A(買収・合併)が活発化しており、投資対象となるサイバーセキュリティ関連銘柄への投資機会は一段と広がると考えられます。
- 現在、未上場のサイバーセキュリティ関連企業の中にも、成長に伴い今後株式市場へ上場する可能性のある企業も多くあるとみられます。また、次世代のセキュリティ技術を有する企業は株式時価総額よりも高い金額で買収されることで、株価が上昇することが期待されます。

2020年以降、新規上場した組入銘柄(2023年12月末時点)

上場年	銘柄名	国・地域
2020年	スノーフレーク	米国
	ジェイフログ	米国
2021年	コンフルエント	米国
	センチネルワン	米国

2020年以降、買収された銘柄例

買収発表年	銘柄名	国・地域
2021年	プルーフポイント	米国
	マイムキャスト	米国
2022年	マンディアント(旧ファイア・アイ)	米国
	セールポイント・テクノロジーズ・ホールディングス	米国
	ノウビー4	米国

(出所) Bloombergのデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

・左表は、2023年12月末時点の当ファンドの組入銘柄のうち、2020年以降に新規上場した銘柄の一例です。右表は、過去に当ファンドで組み入れたことがある銘柄のうち、2020年以降に買収された銘柄の一例です。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて上記銘柄を組み入れることを保証するものではありません。

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。



受賞歴のご紹介

サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジなし)



MORNINGSTAR AWARD “FUND OF THE YEAR 2019” 優秀ファンド賞を受賞しました。

※国際株式型(特定地域) 部門

Morningstar Award “Fund of the Year 2019”は国内追加型株式投資信託を選考対象として独自の定量分析、定性分析に基づき、2019年において各部門別に総合的に優秀であるとモーニングスター※(現:ウエルスアドバイザー株式会社)が判断したものです。国際株式型(特定地域) 部門は、2019年12月末において当該部門に属するファンド719本の中から選考されました。

Morningstar Award “Fund of the Year 2019”は過去の情報に基づくものであり、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。また、モーニングスター※(現:ウエルスアドバイザー株式会社)が信頼できると判断したデータにより評価しましたが、その正確性、完全性等について保証するものではありません。著作権等の知的所有権その他一切の権利はモーニングスター株式会社※(現:ウエルスアドバイザー株式会社)並びにMorningstar, Inc. に帰属し、許可なく複製、転載、引用することを禁じます。

※モーニングスター株式会社は2023年3月30日付で、SBIグローバルアセットマネジメント株式会社に社名を変更いたしました。現在、投資情報サービスおよび投信評価事業は同社の子会社であるウエルスアドバイザー株式会社で行っております。



ファンドの目的・特色①

ファンドの目的

日本を含む世界の株式を実質的な主要投資対象とし、主として値上がり益の獲得をめざします。

ファンドの特色



主として日本を含む世界のサイバーセキュリティ関連企業*の株式に投資を行います。

- 株式等への投資にあたっては、サイバーセキュリティの需要拡大および技術向上の恩恵を享受すると考えられる企業の株式の中から、持続的な利益成長性、市場優位性、財務健全性、株価水準等を考慮して組入銘柄を選定します。
- 株式等の組入比率は高位を維持することを基本とします。

*当ファンドにおいては、サイバー攻撃に対するセキュリティ技術を有し、これを活用した製品・サービスを提供するテクノロジー関連の企業等をいいます。
・実際の運用はサイバーセキュリティ株式マザーファンドを通じて行います。



株式等の運用にあたっては、ヴォヤ・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシーに運用指図に関する権限を委託します。

- ヴォヤ・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシーは、米国の金融グループであるヴォヤ・ファイナンシャルの傘下にある、50年以上の運用実績をもつ米国の資産運用会社です。

・運用の指図に関する権限の委託を受ける者、委託の内容、委託の有無等については、変更する場合があります。

ヴォヤ・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシーのご紹介

(2023年9月末現在)

VOYA[®]

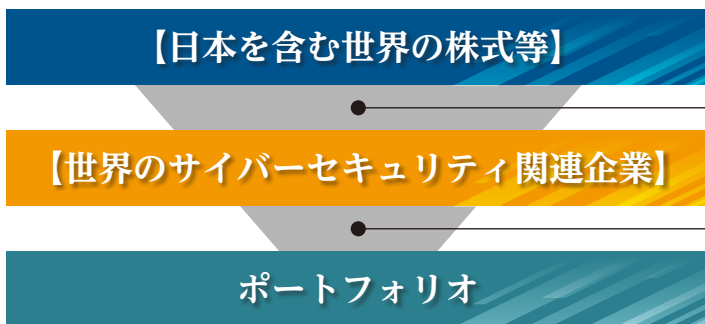
INVESTMENT MANAGEMENT

- 約46兆円* (約3,058億米ドル) の運用資産残高
- 運用のプロフェッショナル 300名超
- 機関投資家、保険会社、確定拠出年金、リテール顧客などに対し、株式・債券の他、マルチアセット、オルタナティブなど多様な商品を提供
- 2017年に国連責任投資原則(PRI)に署名

・PRIとは、投資にESGの視点を組み入れることなどからなる機関投資家の投資原則。原則に賛同する投資機関は署名し、遵守状況を開示・報告する。
・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。

*使用為替レートは、1米ドル=149.23円

運用 プロセスの イメージ



サイバー攻撃に対するセキュリティ技術を有し、これを活用した製品・サービスを提供するテクノロジー関連の企業を抽出

持続的な利益成長性、市場優位性、財務健全性、株価水準等を考慮しポートフォリオを構築

・上記は銘柄選定の視点を示したものであり、すべてを網羅するものではありません。また、実際にファンドで投資する銘柄の将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。上記プロセスは、今後変更されることがあります。

ファンドの 仕組み

運用はサイバーセキュリティ株式マザーファンドへの投資を通じて、主として日本を含む世界の金融商品取引所に上場しているサイバーセキュリティ関連企業の株式へ投資するファミリーファンド方式により運用を行います。

・各ファンド間でのスイッチングが可能です。
販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングの取扱いを行わない場合があります。スイッチングを行う場合の購入時手数料は、販売会社が定めています。
また、スイッチングにより換金をする場合は、換金代金の利益に対して税金がかかります。くわしくは販売会社にご確認ください。



為替ヘッジの有無により、「為替ヘッジあり」、「(為替ヘッジあり) 予想分配金提示型」、および「為替ヘッジなし」、「(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型」が選択できます。

- 「為替ヘッジあり」、「(為替ヘッジあり) 予想分配金提示型」は、実質組入外貨建資産について、原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減をはかります。
なお、為替ヘッジが困難な一部の通貨については、当該通貨との相関等を勘案し、他の通貨による代替ヘッジを行う場合があります。
- 「為替ヘッジなし」、「(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型」は、実質組入外貨建資産について、原則として為替ヘッジを行いませんので、為替相場の変動による影響を受けます。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。



ファンドの特色②



「為替ヘッジあり」、「為替ヘッジなし」は、年1回の決算時(6月6日(休業日の場合は翌営業日))に分配金額を決定します。「(為替ヘッジあり)予想分配金提示型」、「(為替ヘッジなし)予想分配金提示型」は、毎月の決算日(毎月6日(休業日の場合は翌営業日))の前営業日の基準価額に応じた分配を目指します。

為替ヘッジあり/為替ヘッジなし

- 分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。(基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。)

(為替ヘッジあり) 予想分配金提示型 / (為替ヘッジなし) 予想分配金提示型

- 分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。
- 原則として、決算日の前営業日の基準価額に応じ、以下の金額の分配をめざします。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。また、決算日にかけて基準価額が急激に変動し、以下に記載された分配金額が分配対象額を超える場合等には、当該分配金額としないことや分配を行わないことがあります。

決算日の前営業日の基準価額	分配金額(1万口当たり、税引前)
11,000円未満	基準価額の水準等を勘案して決定
11,000円以上12,000円未満	200円
12,000円以上13,000円未満	300円
13,000円以上14,000円未満	400円
14,000円以上	500円

- ・ 基準価額が左記の一定の水準に一度でも到達すればその水準に応じた分配を続ける、というものではありません。
- ・ 分配により基準価額は下落します。そのため、基準価額に影響を与え、次期以降の分配金額は変動する場合があります。また、あらかじめ一定の分配金額を保証するものではありません。
- ・ 基準価額の値上がりにより、分配金の支払い準備のために用意していた資金を超える分配金テーブルに該当することによって資金が不足する場合等は、テーブル通りの分配ができないことがあります。
- ・ 左記表に記載された基準価額および分配金額は、予想に基づくものであり、将来の運用の成果を保証または示唆するものではありません。

将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。



ファンドの運用実績・状況①(2023年12月29日現在)

最新の運用実績は委託会社のホームページ等にてご確認ください。

サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジあり)

基準価額および純資産総額の推移



分配金実績(1万口当たり、税引前)

2023年6月	0円
2022年6月	0円
2021年6月	0円
2020年6月	0円
2019年6月	0円
2018年6月	0円
設定来累計	0円

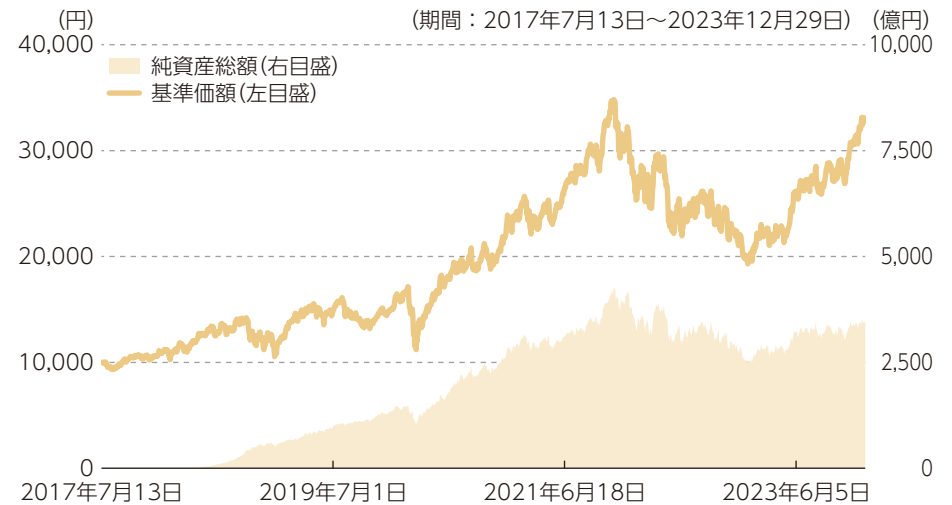
組入通貨

通貨	比率
日本円	97.0%
その他	3.0%

- ・基準価額は、1万口当たりで運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。
- ・信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。
- ・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。
- ・組入通貨の比率は為替予約等を含めた実質的な比率です。「為替ヘッジあり」の為替ヘッジ相当分は日本円で表示されます。表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。
- ・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。
- ・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジなし)

基準価額および純資産総額の推移



分配金実績(1万口当たり、税引前)

2023年6月	0円
2022年6月	0円
2021年6月	0円
2020年6月	0円
2019年6月	0円
2018年6月	0円
設定来累計	0円

組入通貨

	通貨	比率
1	米ドル	95.7%
2	韓国ウォン	2.4%
3	日本円	1.8%



ファンドの運用実績・状況② (2023年12月29日現在)

最新の運用実績は委託会社のホームページ等にてご確認いただけます。

サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジあり)予想分配金提示型

基準価額および純資産総額の推移



分配金実績(1万口当たり、税引前)

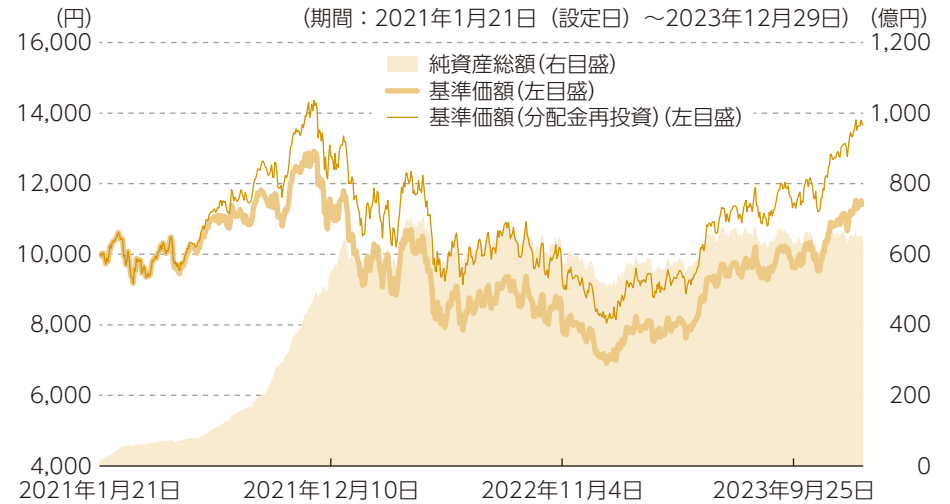
2023年12月	0円
2023年11月	0円
2023年10月	0円
2023年9月	0円
2023年8月	0円
2023年7月	0円
設定来累計	1,000円

組入通貨

通貨	比率
日本円	96.9%
その他	3.1%

サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジなし)予想分配金提示型

基準価額および純資産総額の推移



分配金実績(1万口当たり、税引前)

2023年12月	200円
2023年11月	0円
2023年10月	0円
2023年9月	100円
2023年8月	0円
2023年7月	0円
設定来累計	2,000円

組入通貨

	通貨	比率
1	米ドル	95.8%
2	韓国ウォン	2.4%
3	日本円	1.7%

・基準価額、基準価額(分配金再投資)は、1万口当たりで運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。

・信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。

・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

・組入通貨の比率は為替予約等を含めた実質的な比率です。「(為替ヘッジあり)予想分配金提示型」の為替ヘッジ相当分は日本円で表示されます。表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。

資産構成

	比率			
	為替ヘッジあり	為替ヘッジなし	為替ヘッジあり 予想分配金提示型	為替ヘッジなし 予想分配金提示型
国内株式	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%
外国株式	95.4%	97.5%	95.4%	97.6%
コールローン他	4.1%	2.0%	4.1%	1.9%

組入上位10カ国・地域

	国・地域	比率			
		為替ヘッジあり	為替ヘッジなし	為替ヘッジあり 予想分配金提示型	為替ヘッジなし 予想分配金提示型
1	アメリカ	90.2%	92.2%	90.2%	92.3%
2	イスラエル	2.8%	2.9%	2.8%	2.9%
3	韓国	2.4%	2.4%	2.4%	2.4%
4	日本	0.5%	0.5%	0.5%	0.5%
5	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—

組入上位10業種

	業種	比率			
		為替ヘッジあり	為替ヘッジなし	為替ヘッジあり 予想分配金提示型	為替ヘッジなし 予想分配金提示型
1	ソフトウェア・サービス	75.4%	77.1%	75.4%	77.2%
2	半導体・半導体製造装置	10.1%	10.4%	10.1%	10.4%
3	テクノロジー・ハードウェア・機器	7.6%	7.7%	7.6%	7.7%
4	メディア・娯楽	1.4%	1.5%	1.4%	1.5%
5	商業・専門サービス	1.3%	1.3%	1.3%	1.3%
6	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—

組入上位10銘柄

(組入銘柄数: 42)

	銘柄	国・地域	通貨	業種	比率			
					為替ヘッジあり	為替ヘッジなし	為替ヘッジあり 予想分配金提示型	為替ヘッジなし 予想分配金提示型
1	クラウドストライク・ホールディングス	アメリカ	米ドル	ソフトウェア・サービス	5.4%	5.6%	5.4%	5.6%
2	ブロードコム	アメリカ	米ドル	半導体・半導体製造装置	5.2%	5.4%	5.2%	5.4%
3	ゼットスケラー	アメリカ	米ドル	ソフトウェア・サービス	5.1%	5.3%	5.1%	5.3%
4	パロアルトネットワークス	アメリカ	米ドル	ソフトウェア・サービス	4.8%	4.9%	4.8%	4.9%
5	クラウドフレア	アメリカ	米ドル	ソフトウェア・サービス	4.8%	4.9%	4.8%	4.9%
6	サイバーアーク・ソフトウェア	アメリカ	米ドル	ソフトウェア・サービス	3.8%	3.9%	3.8%	3.9%
7	アカマイ・テクノロジーズ	アメリカ	米ドル	ソフトウェア・サービス	3.5%	3.6%	3.5%	3.6%
8	サービスナウ	アメリカ	米ドル	ソフトウェア・サービス	3.5%	3.6%	3.5%	3.6%
9	マイクロソフト	アメリカ	米ドル	ソフトウェア・サービス	3.2%	3.3%	3.2%	3.3%
10	テナブル・ホールディングス	アメリカ	米ドル	ソフトウェア・サービス	3.1%	3.2%	3.1%	3.2%

・資産構成は、REITの組み入れがある場合、REITは株式に含めて表示しています。コールローン他は未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。

・業種は、GICS(世界産業分類基準)で分類しています。

・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。



組入銘柄のご紹介(2023年12月末現在)

下記は、2023年12月末時点における当ファンドの組入上位銘柄をご紹介します。したがって、個別銘柄の推奨を目的とするものではなく、当ファンドにおいて下記銘柄を組み入れることを保証するものではありません。

☑: 事業内容 📍: ヴォヤの「投資のポイント」



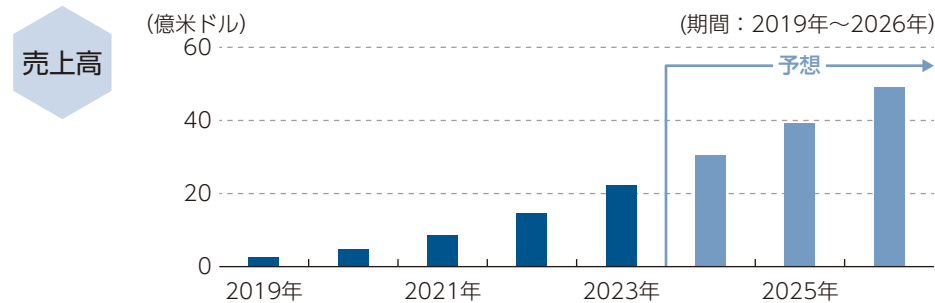
クラウドストライク・ホールディングス



(米国)

AI(人工知能)を活用した セキュリティ・ソリューションを提供

- ☑ 企業のエンドポイント・プロテクションに関するプラットフォームを構築するクラウドベースのセキュリティ・ソリューションを提供しています。また、グラフ・データベース、行動学習を活用してプラットフォーム開発も行っています。
- 📍 クラウドの活用が加速していることから同社の成長機会の広がりが期待されます。



・上記株価は、取得が可能な2019年6月12日(上場日)からの株価の推移を表示しています。



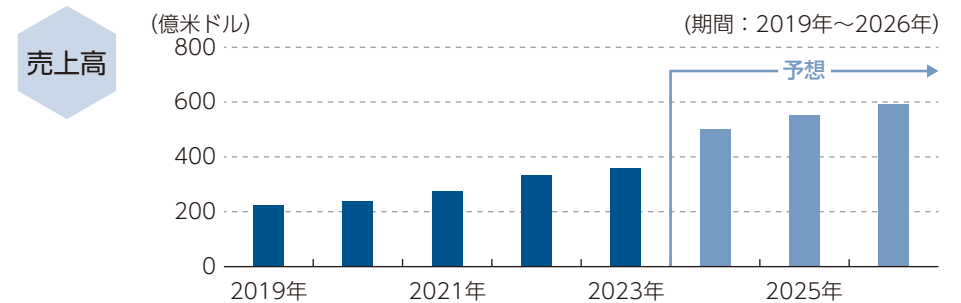
ブロードコム



(米国)

半導体事業を軸に 近年ソフトウェア部門を強化

- ☑ デジタルおよびアナログの半導体製品、企業等が必要とするインフラに関するソフトウェア製品やサービスの設計、開発、販売を行っています。
- 📍 2019年のシマンテック社の企業向け事業買収により、ソフトウェア事業が同社の売上成長の大部分を占めるようになりつつある点を評価しています。



・上記株価は2023年12月末を基準に過去5年間の株価の推移を表示するため、2018年12月31日より表示しています。



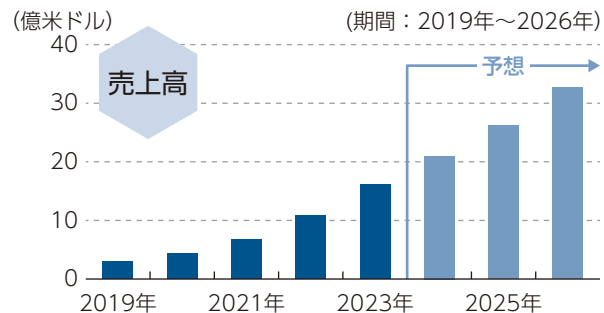
ゼット スケーラー



(米国)

クラウドベースの セキュリティサービスを提供

- ☑ セキュリティサービス企業で、クラウドをベースとしたプラットフォームを提供しています。
- ▶ ハイブリッドワークの普及でクラウドセキュリティの重要性がますます高まっており、その恩恵を受けると期待されます。



・上記株価は2023年12月末を基準に過去5年間の株価の推移を表示するため、2018年12月31日より表示しています。



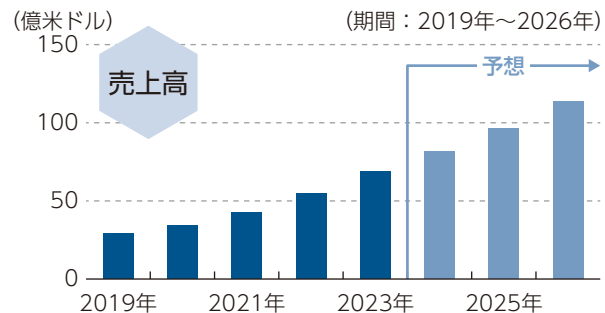
パロアルト ネットワークス



(米国)

次世代ファイアウォールに強み

- ☑ アプリケーションの制御、ユーザーの識別、アンチウイルス等の機能をもつ次世代ファイアウォールを提供しています。
- ▶ 米連邦政府機関の大規模なクラウド移行による恩恵が期待され、今後数四半期にわたる同社の成長ドライバーになるとみています。



・上記株価は2023年12月末を基準に過去5年間の株価の推移を表示するため、2018年12月31日より表示しています。



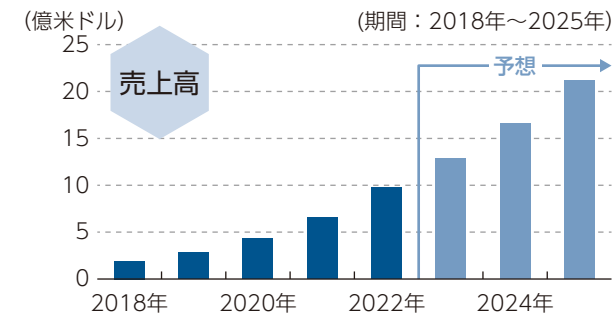
クラウドフレア



(米国)

異なる環境のアプリケーションに 対するセキュリティ対策に強み

- ☑ ウェブサイトを攻撃から保護すると同時にコンピューターシステム等の処理速度向上を可能にするクラウドプラットフォームを提供しています。
- ▶ 2022年に株価が割高であるとの判断から全売却しましたが、その後同社経営陣との対話を通じ、今後の収益性の実現に向けた姿勢を評価し、再度ポートフォリオに追加しました。



・上記株価は、取得が可能な2019年9月13日(上場日)からの株価の推移を表示しています。

(出所) Bloomberg、各社HPを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

・売上高はBloombergによる各企業の会計年度ごと、予想売上高は2024年1月9日時点のBloomberg予想値です。・画像はイメージです。

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。



為替ヘッジあり／なしの選択

為替ヘッジとは:為替の変動による基準価額への影響を低減させる運用手法です。

■ 為替ヘッジありの場合 (為替ヘッジあり)／(為替ヘッジあり) 予想分配金提示型

為替予約取引を活用し為替ヘッジを行うことにより、為替ヘッジをしなかった場合と比較して安定した値動きが期待されます。ただし、為替ヘッジにより、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

■ 為替ヘッジなしの場合 (為替ヘッジなし)／(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型

為替ヘッジを行わないため、為替相場の変動による影響を受けます。

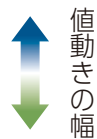
また、各ファンドの投資リターンイメージは、以下のようになります。

投資リターンのイメージ図

為替ヘッジありの場合

(為替ヘッジあり)／(為替ヘッジあり) 予想分配金提示型

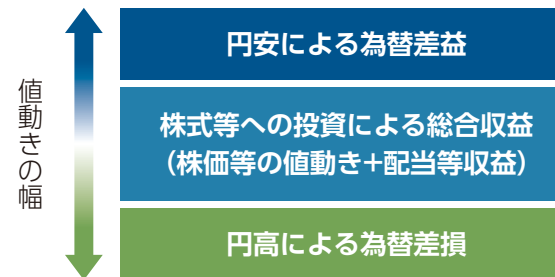
株式等への投資による総合収益
(株価等の値動き+配当等収益)



為替の値動きによる影響を低減し、
株式等への投資による総合収益のみに着目します。

為替ヘッジなしの場合

(為替ヘッジなし)／(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型



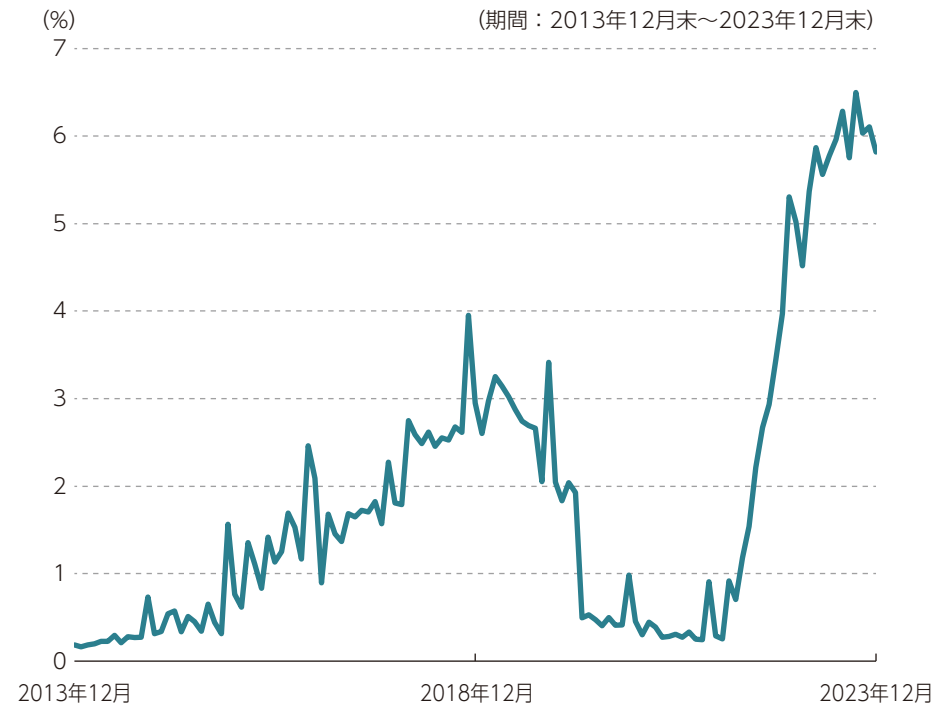
円安による為替差益

株式等への投資による総合収益
(株価等の値動き+配当等収益)

円高による為替差損

- 外貨建資産に投資する場合、投資している有価証券の発行通貨が円に対して強く（円安に）なれば基準価額の上昇要因となり、弱く（円高に）なれば基準価額の下落要因となります（為替変動リスク）。
- 為替変動リスクの低減を図るため、為替ヘッジを行った場合、円金利がヘッジ対象通貨の金利より低いときには、これらの短期金利差に基づくヘッジコストがかかります。なおヘッジコストは基準価額にマイナスの影響を与えます。為替市場の状況によっては、金利差相当分以上のヘッジコストとなる場合があります。

米ドル円の為替ヘッジコストの推移



米ドル(対円)の推移



(出所) Bloombergのデータを基に三菱UFJアセットマネジメント作成

・為替ヘッジコストは、米ドル円の直物レートと先物(1ヵ月)レートから三菱UFJアセットマネジメントが算出したものであり、(為替ヘッジあり) / (為替ヘッジあり) 予想分配金提示型にかかる実際の為替ヘッジコストとは異なります。

・上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。



収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託から分配金が支払われるイメージ



- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。
分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

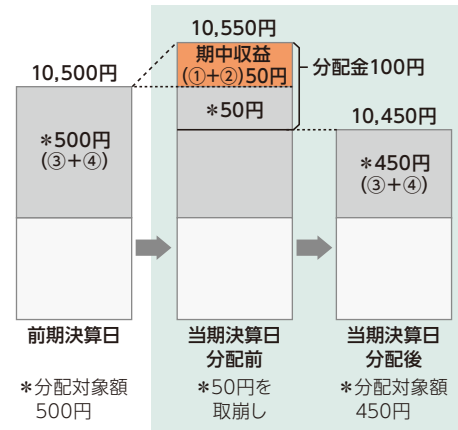
※右記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

分配準備積立金：当期の①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益のうち、当期分配金として支払わなかった残りの金額をいいます。信託財産に留保され、次期以降の分配金の支払いに充当できる分配対象額となります。

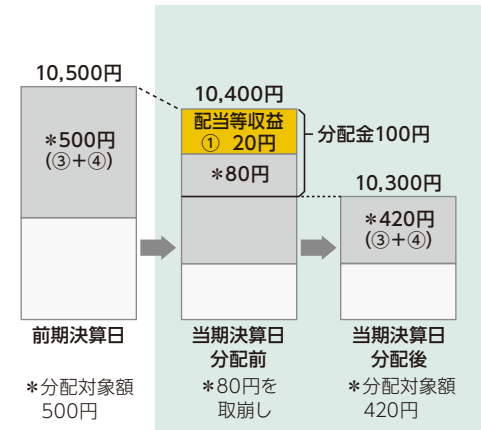
収益調整金：追加型投資信託で追加設定が行われることによって、既存の受益者への収益分配可能額が薄まらないようにするために設けられた勘定です。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合

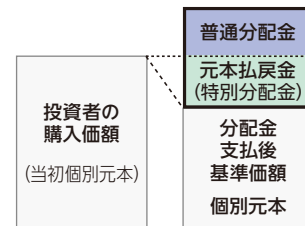


- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりりが小さかった場合も同様です。

普通分配金：個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
元本払戻金：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本(特別分配金) 払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

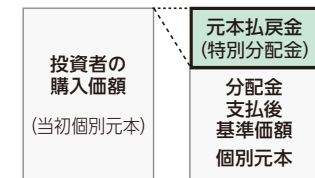
(注) 普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)をご参照ください。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合





ご注意事項等

本資料に関してご留意いただきたい事項

- 本資料は、三菱UFJアセットマネジメントが作成した販売用資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

【本資料で使用している指数について】

世界情報技術株式: MSCI オールカントリー・ワールド 情報技術 インデックス

当指数に対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

◆ GICS(世界産業分類基準)について

Global Industry Classification Standard(“GICS”)は、MSCI Inc.とS&P(Standard & Poor’s)が開発した業種分類です。GICSに関する知的財産所有権はMSCI Inc.およびS&Pに帰属します。



投資リスク

■ 基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの**運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。**

したがって、**投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。**

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

価格変動リスク

株式の価格は、株式市場全体の動向のほか、発行企業の業績や業績に対する市場の見通しなどの影響を受けて変動します。組入株式の価格の下落は、基準価額の下落要因となります。

特定のテーマに沿った銘柄に投資するリスク

ファンドは、特定のテーマ(サイバーセキュリティ関連企業の株式)に沿った銘柄に投資するため、株式市場全体の動きとファンドの基準価額の動きが大きく異なる場合があります。また、より幅広い銘柄に分散投資する場合と比べてファンドの基準価額が大きく変動する場合があります。

為替変動リスク

■「為替ヘッジあり」、「(為替ヘッジあり)予想分配金提示型」

組入外貨建資産については、為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。なお、為替ヘッジが困難な一部の通貨については、当該通貨との相関等を勘案し、他の通貨による代替ヘッジを行う場合があります。その場合、為替ヘッジ効果が得られない可能性や、円と当該通貨との為替変動の影響を受ける可能性があります。為替ヘッジを行う場合で円金利がヘッジ対象通貨の金利より低いときには、これらの金利差相当分のヘッジコストがかかることにご留意ください。ただし、為替市場の状況によっては、金利差相当分以上のヘッジコストとなる場合があります。

■「為替ヘッジなし」、「(為替ヘッジなし)予想分配金提示型」

組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いませんので、為替変動の影響を受けます。

信用リスク

株式の発行企業の経営、財務状況が悪化したり、市場においてその懸念が高まった場合には、株式の価格が下落すること、配当金が減額あるいは支払いが停止されること、倒産等によりその価値がなくなること等があります。

流動性リスク

株式を売買しようとする際に、その株式の取引量が十分でない場合や規制等により取引が制限されている場合には、売買が成立しなかったり、十分な数量の売買が出来なかったり、ファンドの売買自体によって市場価格が動き、結果として不利な価格での取引となる場合があります。

カントリー・リスク

ファンドは、新興国の株式に投資することがあります。新興国への投資は、投資対象国におけるクーデターや重大な政治体制の変更、資産凍結を含む重大な規制の導入、政府のデフォルト等の発生による影響などを受けることにより、先進国への投資を行う場合に比べて、価格変動・為替変動・信用・流動性のリスクが大きくなる可能性があります。

上記は主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。

■ その他の留意点

- ・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- ・ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要性が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。
- ・ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響する場合があります。

■ リスクの管理体制

委託会社では、ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行い、ファンド管理委員会およびリスク管理委員会において、それらの状況の報告を行うほか、必要に応じて改善策を審議しています。

また、流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策を策定し流動性リスクの評価と管理プロセスの検証などを行います。リスク管理委員会は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。

なお、運用委託先で投資リスクに対する管理体制を構築していますが、委託会社においても運用委託先の投資リスクに対する管理体制や管理状況等をモニタリングしています。



お申込みメモ

ご購入の際は、投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください。

※販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合があります。

購入時

購入単位

販売会社が定める単位
販売会社にご確認ください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額
※基準価額は1万口当たりで表示されます。

換金時

換金単位

販売会社が定める単位
販売会社にご確認ください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。

申込について

申込不可日

次に該当する日には、購入・換金はできません。
・ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行の休業日

申込締切時間

原則として、午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。

換金制限

ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。

購入・換金申込受付の中止および取消し

金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情(投資対象国・地域における非常事態(金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等)による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等)があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。また、信託金の限度額に達しない場合でも、ファンドの運用規模・運用効率等を勘案し、市況動向や資金流入の動向等に応じて、購入の申込みの受付を中止することがあります。

信託期間

- 為替ヘッジあり/為替ヘッジなし
無期限(2017年7月13日設定)
- (為替ヘッジあり) 予想分配金提示型/(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型
2032年6月4日まで(2021年1月21日設定)

繰上償還

各ファンドについて、受益権の口数が10億口を下回るようになった場合等には、信託期間を繰上げて償還となる場合があります。

決算日

- 為替ヘッジあり/為替ヘッジなし
毎年6月6日(休業日の場合は翌営業日)
- (為替ヘッジあり) 予想分配金提示型/(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型
毎月6日(休業日の場合は翌営業日)

収益分配

- 為替ヘッジあり/為替ヘッジなし
年1回の決算時に分配金額を決定します。(分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。)
- (為替ヘッジあり) 予想分配金提示型/(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型
毎月の決算時に分配を行います。
販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。

課税関係

課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人投資者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。為替ヘッジあり/為替ヘッジなしは、NISA「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象です。販売会社により取扱いが異なる場合があります。くわしくは、販売会社にご確認ください。(為替ヘッジあり) 予想分配金提示型/(為替ヘッジなし) 予想分配金提示型は、NISAの対象ではありません。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。

スイッチング

各ファンド間でのスイッチングが可能です。販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングの取扱いを行わない場合があります。手続・手数料等は、販売会社にご確認ください。なお、換金時の譲渡益に対して課税されます。

その他



ファンドの費用

ご購入の際は、投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください。

※販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合があります。

◎お客さまが直接的に負担する費用

購入時	購入時 手数料	購入価額に対して、 上限3.30% (税抜 3.00%) 販売会社が定めます。 くわしくは、販売会社にご確認ください。
換金時	信託財産 留保額	ありません。

◎お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

保有期間中	運用管理費用 (信託報酬)	日々の純資産総額に対して、 年率1.870% (税抜 年率1.700%) をかけた額
保有期間中	その他の費用・ 手数料	以下の費用・手数料についてもファンドが負担します。 ・監査法人に支払われるファンドの監査費用 ・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料 ・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用 ・その他信託事務の処理にかかる諸費用 等 ※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、各ファンドの基準価額に反映されます。為替ヘッジあり/為替ヘッジなしについては、毎計算期間の6ヵ月終了時、毎決算時または償還時にファンドから支払われます。(為替ヘッジあり) 予想分配金提示型/ (為替ヘッジなし) 予想分配金提示型については、毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

※ファンドの費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

委託会社(ファンドの運用の指図等)
三菱UFJアセットマネジメント株式会社

受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)
三菱UFJ信託銀行株式会社

販売会社(購入・換金の取扱い等)
下記の三菱UFJアセットマネジメントの照会先でご確認いただけます。

三菱UFJアセットマネジメント株式会社 ●お客さま専用フリーダイヤル:0120-151034(受付時間/営業日の9:00~17:00) ●ホームページアドレス:<https://www.am.mufg.jp/>

三菱UFJアセットマネジメント